

# 環境保全活動の目標と実績、環境負荷の全体像

荒川化学グループでは環境負荷低減に向けた目標を掲げ、継続的かつ着実な活動を実施しています。

## ■環境保全活動 目標と実績

### 環境保全活動の結果と目標

荒川化学グループでは、地球にやさしい企業を目指して、単年度目標と2012年度中期目標を立てて、環境負荷削減の活動を行っています。

2009年度は2007年度対比で、生産量が大幅に減少した結果、環境負荷物質の絶対量は減少し、原単位は逆に悪化しました。PRTR移動量は、ベンゼン使用中止により回収ベンゼンを廃棄したので増加しました。

2010年度は、改正省エネ法、温暖化対策法への対応を確実にし、CO<sub>2</sub>排出量削減およびゼロエミッションに向

けた活動を強化していきます。

### 環境経営度の評価

日本経済新聞社は、毎年企業の「環境経営度調査」の結果を発表しており、第13回目の調査は、2009年9月に実施されました。その結果、荒川化学は回答があった製造業484社中208位の評価をいただきました。なお、第12回の結果は製造業510社中128位でした。順位を落とした理由として、「海外関連会社の環境への取り組み」「生物多様性への対応」が不足していることがわかりました。

評価基準：◎目標以上達成 ○ほぼ目標通り達成 ×目標未達 ××目標大幅未達

重点テーマ	2009年度荒川化学グループの環境保全活動				2010年度目標	2012年度目標
	目標	実績	評価	関連頁		
環境マネジメントシステムの確立と維持	ISO14001認証取得4工場、ヘルノックス、高圧化学エコアクション21維持審査合格	ISO14001認証取得4工場、ヘルノックス、高圧化学エコアクション21維持審査合格	○	P8	ISO14001、エコアクション21取得事業所の維持審査合格、その他事業所のEMS構築	全事業所の環境マネジメントシステムの構築
環境会計の実施	環境保全コスト、物量効果、経済効果を荒川化学グループで実施	環境保全コスト、物量効果、経済効果を荒川化学グループで実施	○	P10	環境保全コスト、物量効果、経済効果を荒川化学グループで実施	環境会計の継続、環境経営へのアドバイス
省エネルギーの推進	エネルギー原単位を2007年度比2%削減	エネルギー原単位を2007年度比6.5%増加	××	P13	エネルギー原単位を2007年度比3%削減	エネルギー原単位を2007年度比5%削減
CO <sub>2</sub> 排出量の削減	CO <sub>2</sub> 排出量を2007年度比2%削減	CO <sub>2</sub> 排出量を2007年度比6.5%削減	◎	P13	CO <sub>2</sub> 排出量を2007年度比3%削減	CO <sub>2</sub> 排出量を2007年度比5%削減
産業廃棄物の削減	最終埋立率=(最終埋立量/発生量)×100 3%以下	最終埋立率 2.7%	○	P15	最終埋立率 2%以下	最終埋立率 1%以下
化学物質の適正管理	PRTR対象物質の排出量を2007年度比2%削減	PRTR対象物質の排出量を2007年度比16.7%削減	◎	P16	PRTR対象物質の排出量を2007年度比3%削減	PRTR対象物質の排出量を2007年度比5%削減
	PRTR対象物質の移動量を2007年度比2%削減	PRTR対象物質の移動量を2007年度比17.3%削減	◎		PRTR対象物質の移動量を2007年度比3%削減	PRTR対象物質の移動量を2007年度比5%削減

## ■環境負荷の状況

